

令和 6 年度 学校評価

資料 3

※評価基準： A＝目標を超える成果があった
B＝目標を達成した
C＝目標を達成できなかった

保護者アンケート
A＝そう思う B＝どちらかということそう思う
C＝どちらかということそう思わない
D＝そう思わない E＝わからない

重点目標 1 個々の実態に応じた指導の充実

部	具体目標	取組方法	自己評価		保護者 アンケート	反省と課題及び改善策	
			A～C	集計結果			
学習指導部	○年間指導計画に沿って授業を進めるとともに、実態に応じた適切な指導を展開するための指導方法や指導場面、教材の工夫を行い、指導の充実を目指す。	・担当者を中心に年間指導計画を作成、学習集団ごとにファイルに綴り、管理する。 ・年間単元題材一覧、年間指導計画を活用し全体像を確認しながら、各単元や題材の指導計画を作成、実践、改善を行う。 ・計画する際に、どのような指導方法や指導場面（場所・集団など）、使用する教材について、ブロック会やteamsを活用して話し合い、単元指導計画に記載する。 ・授業を進める中で変更・改善したり、終了後に振り返りを行ったりして、データとして残すようにする。 ・年間指導計画に記載されている内容（目標・学習内容・関連する主な教科・内容、全体計画との関連）等についても見直しを行い、学期ごとに係へ提出する。	B	A： 9% B： 91% C： 0%	評価項目 (1) A： 87% B： 13% C： 0% D： 0% E： 0%	反省・課題	・昨年度に引き続き、各学習グループごとにおける年間指導計画の見直しや作成を進めることができた。各教科・領域の計画や単元計画の反省をもとに、指導内容や活動内容を工夫して授業を行うことができた。 ・学習指導の充実を図るために、小・中学部の系統性を踏まえた指導内容の検討や精選を行っていきたい。
						改善策	・年間指導計画に沿って授業を進めるとともに、定期的に学習内容等の振り返りを行い、よりよい授業づくりに生かせるようにする。 ・小・中学部の系統性を図るために、教科や各教科等を合わせた指導ごとに、見直しや検討する機会を設ける。データや資料の保管、活用方法について整理し、活用しやすい工夫をする。
小学部	○いろいろな体験を通して、人や社会と関わる力を育成する。	・他者の考えに関心を持ち、相手に分かりやすく自分の考えを伝える意識がもてるように、自分の言動や相手の気持ちを振り返る機会を設ける。 ・友達の長所を認めることができるように、学習の中で互いの良さを伝え合う活動を設定する。 ・友達を意識して関わりを広げられるように、集団活動の中で学習内容や支援の方法を工夫する。 ・集団活動の中で自分の力を発揮できるように、合同授業の機会を増やし、継続的に実施することで、他者と関わる力を育む。	B	A： 24% B： 76% C： 0%	評価項目 (2) A： 87% B： 13% C： 0% D： 0% E： 0%	反省・課題	・友達が褒められていた内容を次の授業時に自ら取り組もうとするなど、友達を意識して学習に向かう姿勢が育った。 ・教師との関わりが多くなってしまいが、友達の動きを見たり模倣したり関わったりしようとする様子が見られるようになった。 ・学級を越えた集団活動の場を設定し授業を実施することができた。生活単元学習の単元の導入など、学習グループ全体で行った方が学習の効果を期待できると考えられるものは、全体で取り組めるとなお良かった。また行事の時だけでなく、学校生活全般において、他の学習グループの児童生徒と挨拶や話をする等、意図的に関わる場面の設定ができるとよかった。
						改善策	・友達の良いところを伝えあうための手立てをもっと充実していく。 ・教師を介して友達と関わる機会を積極的に設ける。教師の関わり方や場面の設定を工夫する。 ・集団場面での目標を踏まえながら積極的に合同授業を実施していく。また、他ブロック、他学部の子童生徒との関わる場面を意図的に設定していく。
中学部	○身に付けた力を活かし、課題を解決しようとする意欲を育成する。	・自分から身近な課題を解決することができるように、タブレット端末等のICT機器を活用して、調べたり自分の意見をまとめ、発表したりする学習を設定する。 ・自ら学び考える力が身に付くように、教科学習において、体験的な活動を多く設定する。 ・進んで学習に取り組み、自分のもてる力を発揮できるように、学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を設定する。	B	A： 21% B： 79% C： 0%	評価項目 (3) A： 67% B： 7% C： 0% D： 0% E： 26%	反省・課題	・「ICT機器」という表現については、「タブレット端末等」と具体的に示したほうが保護者にとって分かりやすかったのではないかと。 ・学校のホームページや中学部だより等で、タブレット端末を活用した学習場面や体験的な活動の場面を取り上げることが少なかったと思う。校外学習や修学旅行の事前学習では、見学先について調べるのにタブレット端末が大いに役立ち、生徒が積極的に活用することができた。また、事後学習の場面でもタブレット端末で写真画像を見ながら活動の様子を振り返るなど、計画的に実施できていたので、そのことを様々な手段で保護者に伝える必要があったのではないかと。
						改善策	・評価項目の文言を、保護者にとってより分かりやすい表現にする。 ・各学級で力を入れて取り組んできた学習内容を保護者に伝えられるように、ホームページの記事の内容や学部だよりの内容を再検討する。

重点目標 2 保護者、各関係機関等との連携

部	具体目標	取組方法	自己評価		保護者 アンケート	反省と課題及び改善策	
			A～C	集計結果			
相談部	○相談の窓口として、校内や関係機関等と連携を図り、チームによる支援が円滑に進むように努める。	・校内周知に向けて、年度初めにセンター的機能やケース会議等の目的や内容について伝達したり、教育相談週間を設けたりする。 ・早期教育相談や地域支援での気付きを発信したり、支援策を校内教員に向けて募ったりすることで、部を超えた校内教員との相互関係を深める。 ・教材教具展などを活用し、校内教員の取組に日頃から目を向けることで、校内の実践を校外につなげる一助とする。 ・部内において常に情報を共有し振り返るとともに、年度末に校内教員に向けてアンケートを実施し、取組について総括することで次につなげる。	B	A：26% B：74% C：0%	評価項目 (5) A：60% B：27% C：13% D：0% E：0%	反省・課題	・校内や関係機関等との連携については、校内では、部を超えて校内教員と一緒に支援策について考えたり、季節の行事を通して、早期教育相談を利用している幼児や保護者と校内教員がつながる企画を考えたりして、学校全体でセンター的機能に取り組むという意識の向上に努めた。関係機関等については、アンケート等を実施したり相互の担当者同士で振り返りの機会をもったりしたことで、より良い支援について意見交換ができた。 ・チームによる支援の充実を目指し、教材教具等を含めた校内教育資源の整理や支援における教員間の役割分担や連携の強化が課題。
						改善策	・教材教具のデータベース化を行うことで、校内外においてスムーズに教材教具が活用されることを目指す。またその活用方法にも目を向け、特別支援学校教員ならではの気付きや工夫なども発信していくことで、校内教員の専門性を生かしていく。 ・校内教育相談の場において、アセスメントとプランニングを丁寧に行うことで、関係する教員がそれぞれの立場ででき得る支援について明確にし効果的な支援の実践につなげる。
教務部	○保護者やリハビリテーションセンターと学校との連携をより充実させるために、日時や実施方法、情報発信について検討し、授業参観や行事、PTA活動への参加と協力を促す。	・授業参観実施期間とPTA活動や保護者会などの日にちを合わせ、時間を調整することで保護者の来校回数の負担を減らし、参加しやすいようにする。 ・行事や授業参観、学部行事などについて、趣旨や活動内容、日時についてリハビリテーションセンターに早めに伝え、参観や学習活動への協力を依頼する。 ・情報発信について、保護者宛て通知のみに限らず、一斉メールで参加を募ったり情報提供したりする。	B	A：18% B：82% C：0%	評価項目 (4) A：73% B：13% C：7% D：0% E：7%	反省・課題	・授業参観やPTA行事、保護者会などできる範囲で同日開催するように調整した。授業参観や運動会、わかくさ祭については、多くの保護者の方やセンター職員の方に来校していただいた。PTA行事については、通知や一斉メール、保護者の方の協力を得て周知することができたが、参加率は前年度と同程度にとどまった。
						改善策	・通知や一斉メールなどで行事等についての周知率は上がったと考えられるため、次年度も同様に周知していく。PTA行事については、個別懇談等の機会に、進路に関する情報を含めた様々な情報を得るための機会として有効であることや、保護者同士のつながりをもつことで、情報交換や共通理解ができるなどのメリットを丁寧に伝え参加を促していきたい。

重点目標 3 安全安心な教育環境の整備

	具体目標	取組方法	自己評価		保護者 アンケート	反省と課題及び改善策	
			A～C	集計結果			
生活指導部	○従来の児童生徒が参加した訓練に加え、職員のための危機対応訓練を重ね、危機管理マニュアルの検証を進める。	・医療的ケア児童生徒の個別の危機対応、発作時を含めた校内事故の対応について関係職員が危機管理マニュアルに示されている内容と訓練時の反省を話し合い、役割分担や連絡についての検証を行う。 ・係を中心に改善意見を収集しマニュアルに反映し改訂案を作成する。 ・改訂されたマニュアルについて職員研修を行い、共通理解を図る。	B	A：26% B：74% C：0%	評価項目 (6) A：67% B：20% C：0% D：0% E：13%	反省・課題	○個別の危機対応については、訓練をとおり改善点を反映したマニュアルが作成され、校務用データにまとめて保管することができた。不審者侵入対応については、訓練を重ねることで検証を行い、多くの改善意見をマニュアルに反映することができた。
						改善策	○訓練実施、検証、改善のサイクルの有効性が認められるので、このような手法を取りつつ、不審者侵入対応においては、さすまた使用の研修などの職員研修の充実を図っていきたい。また職員中心の避難訓練を充実させ、マニュアルへの反映を行っていききたい。 ○保護者に本校の危機管理に関しての理解促進のため、概要版を作成し配布等を行えるかどうか検討する。
生活指導部	○危機管理マニュアルの改訂に伴い、「事前の危機管理」の内容と整合を取るため、安全点検表の項目を検討する。	・マニュアルの事例にある「事前の危機管理」を基に係がチェックリストを作成し、それに沿って施設、備品が管理されているかそれぞれの担当区の責任者が確認する。 ・確認後、項目についての意見を職員から集める。 ・チェックリストに改善意見を反映させ、改訂版安全点検表として職員会議等で周知し、危機への備えとする。	B	A：24% B：76% C：0%	評価項目 (7) A：93% B：7% C：0% D：0% E：0%	反省・課題	○マニュアルが整ってきたこともあり、「事前の危機管理」の項目と安全点検の項目の整合性を図ってきたが、安全点検上、留意すべき点、視覚的な指示が必要な点が各点検場所に存在するため、安全点検表にこれらを反映することとした。
						改善策	○今回の見直し部分を安全点検表に反映するとともに、「点検時の留意事項」の併記および図を掲載し「見える化」するとともに、全職員が安全点検時に、共通の視点が持てるようにする。
生活指導部	○本校いじめ防止基本方針に基づいていじめ防止に取り組む。	・基本方針について学校HP等に掲載する。 ・「いじめ」や「学校生活」に関するアンケート配布時に基本方針の案内を行う。 ・保護者会にて、本校の取組について説明する。 ・「いじめ対応ハンドブック」を使用し、いじめの組織的対応について、職員研修を行う。	B	A：18% B：82% C：0%	評価項目 (8) A：73% B：13% C：0% D：0% E：13%	反省・課題	○年度当初の職員研修、「いじめ」や「学校生活」におけるアンケート実施時、特設の職員研修等を行った。本校においては、いじめ問題の発生が皆無であるが、職員においては発生時の早期対応の手順、県全体の動向など情報共有を行い、保護者に学校の取り組みを周知する必要がある。
						改善策	○児童生徒にどのような指導が行われているか、学校で実施しているアンケート等の結果の報告みならず、児童生徒が実際に使用したアンケートを保護者に示し、発達段階に応じて細やかな指導を行っていることを周知していく。